

ゴミ、捨てんなよ!



The wisdom under the Tree.

関係人口という概念の意義



自己紹介



ソーシャル&エコ・マガジン 「観光以上、移住未満」の地域との関わり方! 「関係人口」の大特集!

ソトコト

No. 237
March
2015
SOTOKOTO
1000YEN

続

観光以上、移住未満。

関係

人口

入門

関係人口の
なり方、
つくり方
Q&A

Think More Local, Think More People

ソトコト編集部(編集237号) | 2015年2月5日発行 | 毎月5日発行



指出 一正
Kazumasa Sashide

ぼくらは地方で 幸せを見つける

ソトコト流ローカル再生論







僕たちは
島で、
未来を
見ることに
した

株式会社巡の環 著
阿部裕志（代表取締役）
信岡良亮（取締役）



この本に書ききれなかった
たくさんのたいへんなことを思うと、胸が熱くなる。
若さと自然と人々の絆、どれが欠けても成功しなかった
ある奇跡の本です。

——よしもとばなな

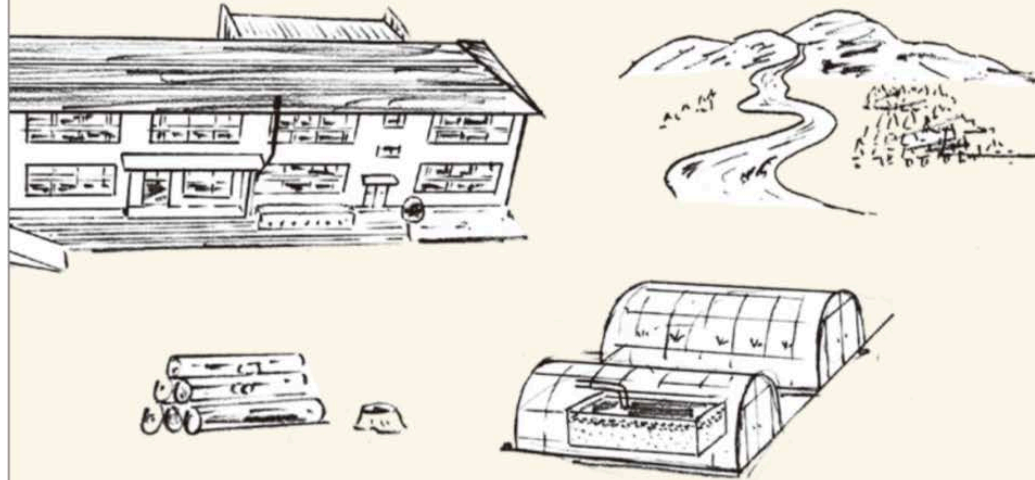
日本は世界の離島だ。
離島から日本を変え、
世界を変える。

——養老孟司

ローカル ベンチャー

牧 大介

地域には
ビジネスの可能性が
あふれている



地域に住む・住みたい、すべての人へ。

地域経済はもっと儲かる！

人口約1400人の小さな村、岡山県・西粟倉村で二社で5億8千万円の売り上げを達成した著者が、2009年からの起業ストーリーと、「地域でのベンチャービジネス」を初めて語った――。

木楽舎
KIRAKUSHA

イタ

LOCAL WORK & PLACE

まちづくりと まちしごとの 求人サイト

「イタ」とは「板」のことであり、「いた!」という仲間を発見したときの喜びとワクワク感のこと。そう、1990年代、まるでかつて東京の私鉄の改札にあった白い掲示板のような。雑だし、つたないし、言葉少なめかもしれないけれど、そのやさしさと親しみのこもったショート・センテンスから、想いや気持ちや状況を読み込めた時代が確かにありました。

イタは饒舌ではありません。かゆいところに手は届いていません。むしろ、ぶっさらぼうかもしれない。だけど、だからこそ、その出会いを、「自分が見つけた」という発見の喜びに変えられる可能性のほうを大切にしています。イタ。ローカルのまちづくりとまちしごとの(ちょっぴり荒削りな)求人サイトです。

奈良県 川上村

ほうれん草が
「しなこい、しなこい！」

2018.11.01 UP

愛知県 西幡豆町

住み込み
発酵修行

2018.11.01 UP

宮崎県 新富町

10人10個
誘惑の
あたらしい仕事づくり

2018.11.01 UP

福岡県 久留米市

まるで、
銭湯の
番頭さんの
ような

2018.11.01 UP

秋田県 五城目町

アートプロジェクトの編集
(雪かきも)

2018.11.01 UP

兵庫県 尼崎市

今までに
友だちに
いなかったような
人たちと
友だちになる

2018.11.01 UP

広島県 御手洗

瀬戸内の島で
維新
を起こせ。

2018.11.01 UP

茨城県 日立市

せんぶうきん
扇風琴を

神奈川県 茅ヶ崎市

老若男女
美酒佳肴

関係人口をつくる

定住でも交流でもないローカルイノベーション

ローカルジャーナリスト・田中輝美

人口減少地域を救う
新しいキーワードは
「関係人口」だ！

Double
Residency

Local
Volunteering

Regular
Visits

Donating
(Hometown
Tax Option)

Local
Specialty
Shopping

「移住」しなくても、
地域を学びたい！
関わりたい！
過疎先進県・島根の取り組み
「しまコトアカデミー」から、
地域との多様な関わり方を考える。

企画・シーズ総合政策研究所

木楽舎
KIRAKUSHA

ソーシャル&エコ・マガジン 観光以上、移住未満の第三の人口! 「関係人口」の大特集!

ソトコト

No. 224
February
2019 Anniversary
SOTOKOTO
823YEN

関係人口の
作り方
Q&A

観光以上、移住未満。

関係

人口

入門

Think Local, Think People

ソトコト 編集長 藤田 浩二 (No. 224号) 2019年2月1日発行 (毎月1日発行)

地域の編集学校 四万十川源流点校 ～町の内外の若者が関わる手法～













関係人口とは？ ～地域を発見する喜び～





しまこトアカデミーとは



講座情報



講師・メンター



受講生の声



ニュース

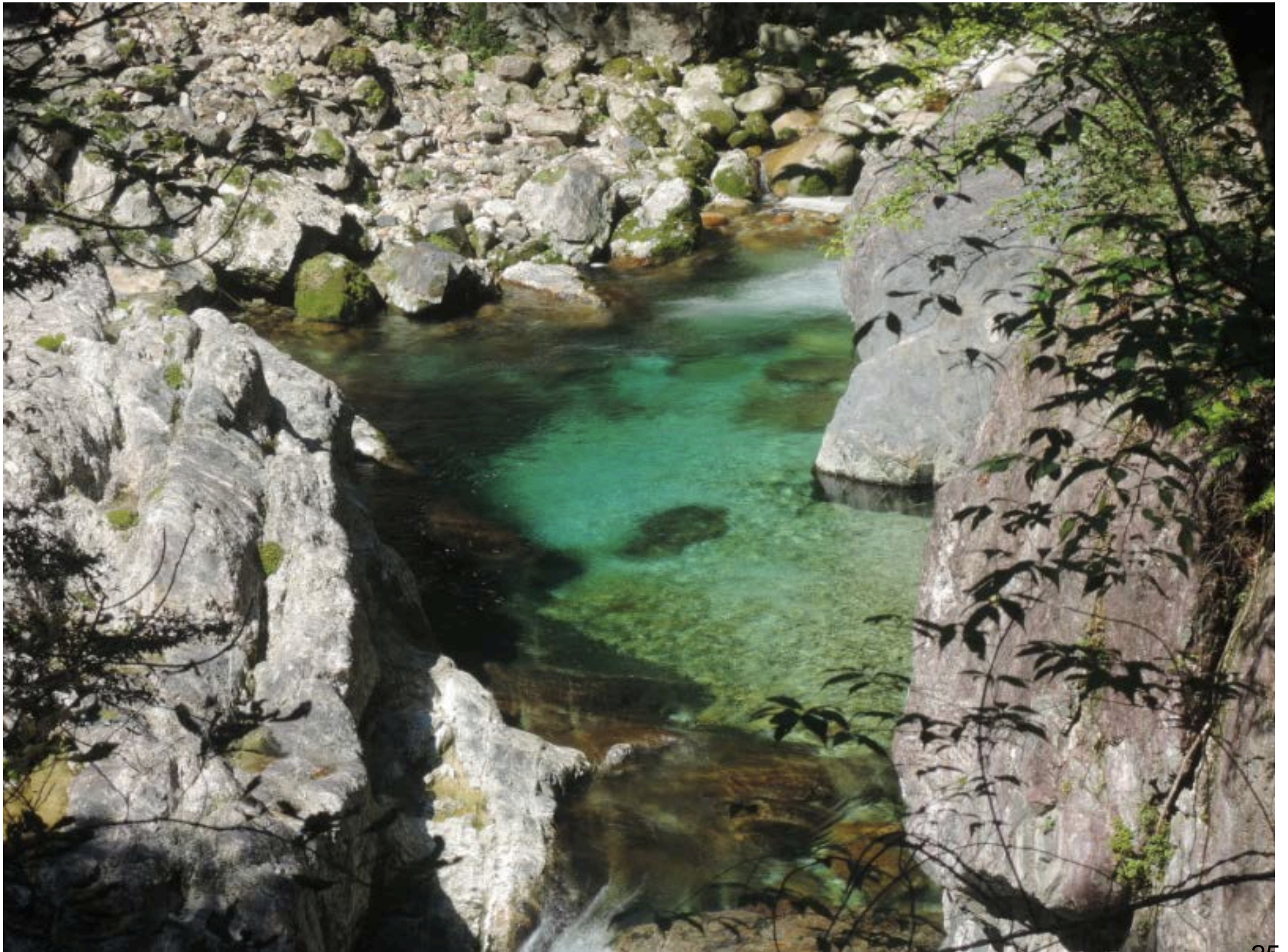


インターンレポート

























宮城県・唐桑半島が元気です。 社会を動かす ペンターン女子!

あたらしい価値観を持って地方へ移住し、
そこで始まった人生を楽しんでいる女子チームを紹介。
でも、ユニットチームなのではなくて、
まだまだ移住者を募集しているそうですよ!

photographs by Masaya Tanaka text by Yoshino Kokubo



宮城県の最北東端に位置する唐桑半島。リアス式海岸特有の美しい景色をもつ。

陸地からつららのように細く延びた、唐桑半島と呼ばれる宮城県気仙沼市唐桑町。市内で最も太平洋側に突き出ているため、3・11で甚大な被害を受けたところでもある。

しかし、この小さな半島で。あたらしい移住のカタチが始まっている。3・11からの約5年で、唐桑半島へ移住した人は15人ほどになった。なかでも、若者によるまちづくりプロジェクト「からくわ丸」に携わっている移住者が9人。彼らは、半島に移住することを「ペンターン」と命名

した。「ペン」は、半島を意味する「Peninsula」から。9人のうち、5人が女子で「ペンターン女子」と呼ばれるようになった。

そのリーダー、根岸えまさんは、取材にもんべ姿で登場し、「地元のおばあちゃんが作ってくれたんです。一番のお気に入りです」と話し、「このもんべに、ニット帽とデニムシャツ、ムートンブーツを合わせているところがポイントだよ」と、他のメンバーと笑った。とにかく明るく、笑いの絶えない5人だ。

根岸さんが初めて唐桑半島を訪れたのは、2011年10月、大学2年生のときのこと。「唐桑町内のある地区の運動会にお手伝いとして参加するボランティアでした。私は東京生まれ、東京育ちで、これまで地方に行ったことがなかったんです。集まった地元約80人が大家族のようで、人と人の距離が近いので驚きました」。

その冬、根岸さんに衝撃的な出会いがあった。「地元の漁師さんから、震災の話が直接聞くことができたんです。津波が来る前に船を沖へ出す「沖出し」をしてその方は助かったのですが、行方不明になってしまった漁師さんもいたことや、荒れ果てた町で人から裏切られるようなことがあり絶望したことを、涙ながらに語ってくださいました。それでもなぜ漁師を続けているのかを聞くと、「ずっと漁師として生きてきたから、自分が漁師として先頭に立ってこの地域をどうにかしたい」と、圧倒的な使命感を持っていたんです。どん底から這い上がる人の強さを感じましたし、命を引き換えに仕事をしている人のすごさに価値観が一気に変わったんです。こういう方をもっと

ペンターンのペンは、ペニンシュラから。
つまり、「半島移住」のことです!

PENINSULA

増やしたい、この町のために頑張る人をもっと増えたら」と。根岸さんはこれを機に、2012年に大学を休学し、1年唐桑半島に滞在。「からくわ丸」などの活動に没頭した。その後、復学する際には「東京に戻るのほらかったけれど、もっと勉強したいという気持ちで芽生えていた」という根岸さん。生産者の顔を知ったことで一次産業に興味を持ち、あるNPOでインターンを経験した。その母体企業から就職の誘いも受けたが、唐桑半島へ戻りたい気持ちが強く、2015年3月に大学を卒業し、ついに4月に移住した。

佐々木美穂さんは、いち早く唐桑半島へ入ったメンバー。当時は兵庫に住む大学1年生。ハンセン病に関する海外でのボランティア活動をしていて、唐桑半島に著名なハンセン病の元・患者がいたことでこの町を知っていたため、2011年3月にボランティアとして入った。通ううち、居心地のよさに移住を意識するようになり、2015年3月に大学を卒業し、4月に移住した。「実はマスコミ志望で内定もいただいたんですが、縁もゆかりもない東京での生活を考えたら、同じ志をもつ仲間



新潟県十日町市の津池という限界集落。ここに住む建築集団が、地域をちょっとおもしろくしている。その名も「パーリー建築」。

立ち上げたのは宮原翔太郎さん。都内の大学を卒業後、2年間専門学校で建築やスペースデザインを勉強し、縁あって広島・尾道のゲストハウス「ヤドカリ」のリーダー・ショーンに住み込みで関わった。この体験が、彼の人生の転機に。「尾道ではメインスタッフは僕を含め3人だけで、ちょっと建築を学んだだけの僕に自由にやらせてくれたんです。いろいろな人を巻き込みながら場ができていって、こういう場所のつくり方があるんだ」と、人生観を変えられました。

学校で学んだ建築より本能的だと感じたことも刺激になったという。「自分の手を使って自分の住居を整える行為は、人間以外の生きものが自然にやっていることですね。でも、人間はそれから遠のいてしまっている。セルフビルドこそ建築だと思っただけです」

2014年秋、尾道から帰京した翔太郎さんは、波谷のある空き家を改装する活動を始めます。自ら住み込んで、友達や興味をもってくれた人々を巻き込みながら、自分たちの手で空間づくりを進めていった。

とにかく、「パーリー」を続けながら、使われなくなってきた建物を改装する。そんなユニークなメンバーって？

この3人がパーリー建築
農精部隊の1人です！

白鳥家シェアハウス「ギルドハウス十日町」と住人のみなさん。「いつでも来てほしい」と翔太郎さん。

『ギルドハウス十日町』を訪ねてみました。

「パーリー建築」で、毎日がパーティ!

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」で賑わう新潟県十日町市で、芸術祭とは別の盛り上がりを見せているシェアハウスを発見。その中心にある建築集団がいました。

photographs by Hiroshi Takahata Text by Yoshino Sakuma

この3人がパーリー建築
建築部隊の翔太郎です!

この3人がパーリー建築
狩猟採集部隊の勇太郎です!

住むの場所
わたしの居場所
my place to live

関係人口はプレイヤー









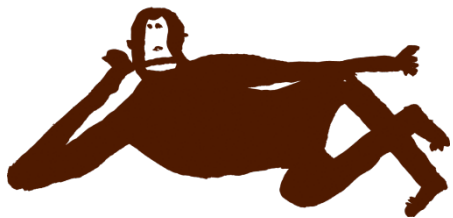




関係人口を迎え入れる人



ゴミ、捨てんなよ!



説明会申し込み受付中!!
いずれも参加費無料

越前おおのみずコトアカデミー

こんな方に
オススメ!

水を活かした
大野市の暮らしや
コトおこしに
興味のある方

ローカルや
地域との関わりに
興味のある方

地元出身者
じゃなくても
興味有る方大歓迎!

ソーシャル人材育成講座 東京講座 第1期 受講生募集

募集締切 平成29年11月20日(月)18時 締め切り 定員 10名程度



福井県大野市。「みず」から始まる人・モノ・コトの発見講座まずはご来場ください!

11月3日(金・祝)・11月8日(水)都内にて説明会開催!!

第1回 大野市の食の体験をしていただきます!
日 時 / 11月3日(金・祝)19:30スタート
会 場 / OBI-オビ(東京都千代田区一番町6番地)
ゲスト / 長谷川和俊氏(映像作家・グラフィックデザイナー)
竹中あゆみ氏(月刊「ソトコト」編集部)

第2回 メイン講師 指出一正氏に登場いただきます!
日 時 / 11月8日(水)19:30スタート
会 場 / リトルトーキョー(東京都江東区三好1-7-14)
ゲスト / 指出一正氏(月刊「ソトコト」編集長)
竹中あゆみ氏(月刊「ソトコト」編集部)



メイン講師 指出一正氏(月刊「ソトコト」編集長)

ソトコト × 越前おおのみず

福井県大野市は、ほくにとって特別な地域です。それは、「水」というかけがえのない存在が、山間の豊かな自然環境の中だけにとどまらず、まちや人の暮らし、文化を含めて循環しているからです。打波川を遊ぶように泳ぐイワナが、その流れの上をさっそうと飛ぶヤマセミが、まちでは、湧き出る透明な「御清水(おしょうず)」に健康的なコミュニティが息づいています。「水」をテーマに、この大野市という魅力あふれる地域と、おもしろく出会い、新しい仲間として関わっていただけたら幸いです。

1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学科卒業。国内外のソーシャルな動きにいち早く注目し、ソーシャルグッドな取り組みやそこに関わる人、コミュニティを積極的に取材。近年は、ソーシャル人材を育成する講座の講師としても人気を博している。奈良県「奈良和アカデミー」メイン講師、奈良県下北山村「奈良・下北山 むらコトアカデミー」メイン講師、鳥取県「しまコトアカデミー」メイン講師、高知県文化広報誌「とさぶし」編集委員、静岡県「地域のお店」デザイン表彰審査委員長、広島県「ひろしま さとやま未来博2017」総合監修、長野県長野市WEBメディア「ナガラボ」編集長をはじめ、地域のプロジェクトに多く関わる。著書に「ほくらは地方で幸せを見つける」(ポプラ新書)。

無料説明会への参加申し込みは、[PEATIXサイト](http://ptix.at/GPQWZJ)からのお申し込みまたは[フェイスブックページ](https://goo.gl/VfQQZi)での参加表明をお願いします。

<http://ptix.at/GPQWZJ>

<https://goo.gl/VfQQZi>







CRISK HI
CASE 2D





Y. Y. Y.









真心込めて
もらってます!

和歌山の温暖な気候によって甘く育ったみかん。温州みかん「田村みかん」は、12月初旬に最盛期を迎える。

特集
関係人口入門

Think Local. Think People
CHAPTER

【関係人口を迎え入れる人】

「みかん愛」と「田村愛」の
強さで関係人口を増やす。

榎原正都さんは、
持ち前のノリのよさと、
楽しくなっちゃう巻き込み力!

1年で延べ100名を超える大学生が足を運ぶ場所となったブランド「田村みかん」の産地、和歌山県・湯浅町田地区。その裏には、みかんの全国消費量減に危機感を覚えた榎原正都さんと仲間のみかん農家の活躍がありました。

Photographs by Hiroshi Takakura text by Hitomi Nakano

世帯の半数がみかん農家。
田村はブランドみかんの里。

「田村はおいしいみかんの生育に絶対のロケーションなんです」と笑顔で畑を指差す榎原正都さん。温暖な気候に強く吹き付ける潮風、ストレスがかかるほど果実は甘くなるそうだ。思われた土壌で育った「田村みかん」のブランドは、一般流通の5倍近くの価格で取引されることもある。

人口約1000人、250世帯の有田郡湯浅町田地区(以下、「田村」)。約半数の120軒がみかん農家だ。「幸美農園5代目園主」の肩書で母親と共にみかんづく



『幸美農園』の7代目・井上信太郎さん。みかんをつくりながら田村を盛り上げる、榎原さんの心強い味方だ。

『幸美農園』園主・榎原正都さんの関係人口チャート



くりと携わる榎原さん。おいしいみかんづくりは母親に任せ、今力を入れているのは農業へのハードルを下げ、田村に関わる人を増やすことだ。「田村みかん」のブランドを売るための営業はしていないんです。むしろ生産が追いつかないくらい需要があつて。一度、みかんや田村を外から見た僕だからこそ、遊軍となつてできることがあると思うんです」

みかんの
トップブランド地、
和歌山県有田郡
湯浅町田地区。

一緒に
やりましょう!

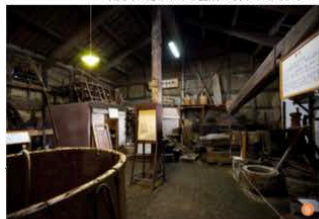
そこに
人を出迎える
大きな笑顔が
待っています。



『幸美農園』のみかん畑の前で、広い園内に整えられたみかんの木が並ぶ。母親と共に農作業を行う。



●みかん特有の段々畑は古代都市「マチュピチュ」を彷彿させる。●醤油発祥の地でもある湯浅町、風情を感じる「北町通り」の町並みが特徴的だ。2006年に文部科学省によって「重要伝統的建造物群保存地区」に指定された。ふわりと醤油の香りがただよぶこの通りにも、Uターンした若者の姿が。●醤油の歴史が学べる施設。



消費量の大幅なダウンに衝撃、
10年ぶりに地元へ。
「みかんはもちろん、大好きな『田村』を
盛り上げていきたいんです」



●みかんの箱詰めはすべて手作業で行う。●「田村出荷組合」はブランドを守るために欠かせない。田村独自の仕組みだ。「組合内では、各農家のみかんの価格が一目で分かり、評価がダイレクトに伝わる。フレッシュでもあり、高め合いにもなる」と榎原さん。



たわに実ったみかんを収穫する榎原さん。雨風が直接当たる外側に実ったものほど、甘みが強く出る。やはり陽で食べる採れたてがおいしい。

幼馴染みの井上信太郎さんは、榎原さんをよく知る協力者だ。実家のみかん農園「善兵衛農園」を継いだのは、榎原さんが地元に戻る半年前。和歌山大学でグリーンツーリズムを学んだ後、2年間農業コーディネーターとしてのノウハウを積んだ井上さん。就職当初から、みかんづくり

と気づいた瞬間だった。
「みかんの消費量激減は大きな衝撃でした。『田村みかん』は人気のあるブランドですが、10年後にその人気が約束されているわけではありません。9割近くが専業農家の田村がこのまま衰退していったら……と想像すると恐ろしくて。僕、田村が大好きなんです。好きだから何かしなきゃって。みかんが売れなくなったら地元が衰退していく。今自分がやるべきことは、実家の経営よりもみかん業界全体を底上げすることだと気づいた瞬間だった。」



湯浅町には、和歌山県内1位のしらす漁獲量を誇る漁港も。新鮮だからこそおいしい「生しらす丼」は、一度は食べておきたい味。

え、中学校を卒業してから話すことがなかった二人が打ち解けたのは、「田村を観光地で終わらせたくない」という共通の思いを持っていたから。「信太郎は僕と比べて人当たりがいいからほんま助かります」と榎原さん。田村を担う遊軍に、参謀役・井上さんの存在は不可欠なのだ。

を持っていなかった榎原さん。たまたまテレビ出演をしていたみかん好きの大学生が集まるサークル「東大みかん愛好会」のメンバーに興味を持ち、連絡をとるように。メンバーと話す中で、みかんの全国消費量が20年前と比較して大幅にダウンしている事実を知った。
「みかんの消費量激減は大きな衝撃でした。『田村みかん』は人気のあるブランドですが、10年後にその人気

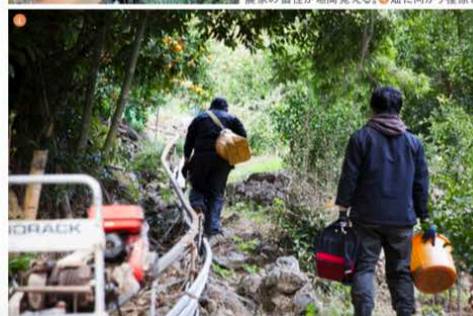
に励みながら、県外の大学生をターゲットに田村で農業体験の機会を設けていた。2016年10月、井上さんは「東大みかん愛好会」のメンバーから榎原さんが田村に戻ってきたことを知らされた。間もなくやり取りを始め、二人は再会。田村でやりたいことを語った。幼馴染みとはい

みかんでつながった、
活動を支える心強いパートナー！
2016年9月、榎原さんは新卒から勤めていた映像制作会社を辞め、東京から地元・田村に戻ってきた。「同世代よりも高い給料をもらい管理職に就き、このままじゃ自分が腐っていきくんじゃないかと、ふと不安

になったんです。一度思われた立場を失おうと思ひ、新しい経験ができる場所はどこだろうかと考えた末、思い浮かんだのが高校卒業と共に出た田村のことでした」と榎原さんはUターンのきっかけを振り返る。
当初、実家の経営を見直し、3か月ほどで田村を出ようと計画していたそうだが、みかんについての知識



●みかん畑の前に立つ榎原さんと母・貴美代さん。●みかん畑は傾斜がキツモとなる。畑間の荷物移動を担う「モノラック」は、乗り物としても楽しい。●収穫の必需品であるカゴ。デザインや形状に各農家の個性が垣間見える。●畑に向かう榎原さんと井上さん。後ろ姿が頼もしい。



田村の関係人口、
すくすくと
育っています!



▲みかんの収穫には少しコツがいる!



▲収穫成功!



▲木の下でひと休み。



▲鍋を囲んで交流します!



▲収穫を終え、ハイチーズ!



▲「日本みかんサミット」での一枚。



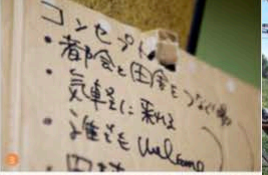
▲マイクを握る凛々しい井上さん。

まずは田村を知って。
農業との関わり方に選択肢を。

田村に戻った椋原さんは、井上さんと共に大学生の受け入れに力を入れた。農業を手伝ってもらったり代わりに、寝る場所と食事を提供するワーキングホリデーだ。拠点は、親戚の空き家を借り、井上さんが地元の友

人をつくった「紀家わくわく」。農業体験に訪れた大学生が交流を持てる場として機能しているが、内輪感が出ないよう、誰かが住み込むことはしない。近隣住民も集まって交流が生まれるような、公民館的なコミュニティスペースを目指している。「東大みかん愛好会」のメンバーを筆頭に、口コミで田村を訪れた大学生は1年で延べ100人を超えた。1度で終わらず2度、3度、目的が農業体験から田村に来ることに変わっていき、学生もいる。井上さんは「彼らは来るたびに田村をもっと知りたいという。田村での気づきを僕らに伝えて、大学生の言葉で友達にボイスチェンジして伝えてもらいたいです。同じ言葉で言うより生々しくて説得力があるから」と話す。1000人の地区に多くの大学生がいる状況は、住民にとって馴染みがなく初めは不思議がられたという。しかし次第に「今年はおのり子畑手伝って欲しいのか」と椋原さんたちに尋ねるようになった。

2017年9月には、湯浅町で開催された「日本みかんサミット」の運営を支え、「東大みかん愛好会」と「静大みかんクラブ」の合同夏合宿の受け入れと、立て続けに大きな企画を行った。二人は田村を担う次世代も見据えていた。合宿で田村小学校の児童に向け大学生がみかんの授



●2017年のみかんの出来について話す椋原さんと井上さん。●「紀家わくわく」の外観。築90年の歴史ある物件だ。●井上さん主導で地元の間接主と考案したコンセプト。●「善兵衛農園」の作業場入り口。井上さんが大学生に頼み、一発書きしてもらったそう。

盟友井上信太郎さんとともに、ファンや仲間を増やし、関わりを深めていく!

椋原さんたちの活躍ぶりが頼もしい!



右/「CHARLL'S」のロゴ。左/四字熟語の「一期一会」をもじった「みかんいちえ」。みかんが出会いをつなぐ足がかり。

若い農業従事者の多くは、田村で実家のみかん農家を継いだ仲間たち。椋原さん、井上さんと同じ小・中学校を共にした幼馴染みだ。●「今から来れん?」と椋原さんが電話をかけると、次々に軽トラで「田村出荷組合」に集合。



もう一つは、主にクリエイターやデジタルネイティブ世代をターゲットとしたサービスを提供する「ICT RESIST(シトラススト)」。3C(クリエイティブ・チャレンジ・コミュニティ)を掲げるこの団体は、柑橘業界に関わる人を増やすことを目的としている。クリエイティブな人材が不足している柑橘業界と、地



「ここはプライベートビーチなんですよ」と二人に紹介された砂浜は自宅から車で5分。「やるしかないでー」と意気込む二人。

掲げる「ちょよいい」は、彼自身の働き方も表しているようだ。北風が冷たくなり、山を彩るみかんの鮮やかさが美しい今、田村みかんは最盛期を迎えている。「あー、今人生で一番楽しいかもしれない」とうれしそうに漏らした椋原さん。みかんの未来が明るいことを予感させる笑顔だった。

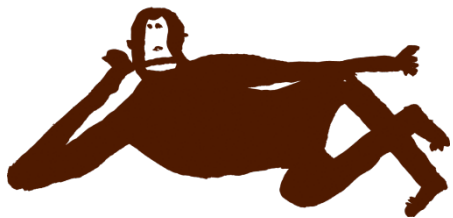
椋原さんと一緒に田村で活躍する仲間、井上さんと実家を継いだ若手農家は、みな小・中学校が同じ幼馴染み。仲間と共に、子どものような無邪気さで全力で楽しむ様子は文化祭の準備期間のよう。その輪に飛び込みたくなった時点で、関係人口の仲間入りなのだと思ふ。

記者が見た関係人口。

関係案内所がありますか？



ゴミ、捨てんなよ!





なぜ、この地域がおもしろいの?

なかにとてもオシャレ!
女性も訪れていますよ。



『オフィスキャンプ東吉野』をハブとして、広がりを見せるクリエイティブ・ライフ。

ヒターンした長屋です。新しい生活にドキドキ!

「オフィスキャンプ東吉野」が誕生したきっかけは、10年前。キーマンである坂本大祐さんが奈良県・東吉野村に移住したことに始まる。坂本さんは大阪でフリーランスのクリエイターとして働いていたが、無理がたたって病気を患い、入院。収入も絶たれたため、両親が東吉野村に建てていたアトリエに移住した。

「当時の東吉野は若者が少なく寂しかったです。大阪や名古屋など都市圏で仕事をして、そのまま友達の家泊まったり。東吉野で活動することはほとんどなかったですね」

都市圏と東吉野を行ったり来たりする生活が続いていた頃、坂本さんはある雑誌の取材を受けた。テーマは移住。取材に同行していたのは、奈良県移住・交流推進室長の福野博昭さんだった。取材後、福野さんは「県の広報やデザインの仕事を奈良の若者がやってほしいんやけど」と坂本さんにもちかけた。「以来、県の仕事にも携わるようになりまし



山や川に囲まれた、豊かな自然のなか、シェアオフィスや coworking スペースとして利用されている。

NEXT! クリエイティブ・ライフを楽しむ人がこんなにも! Creative Life 1

オフィスキャンプ東吉野 URL >>> <http://officecamp.jp>



福野氏の福野です。奥大和でものつくり!



この古民家を見つけた。吉野と長井の間です!

発案者の坂本です。数年前に立ち寄ってね!

た。そのなかに、クリエイティブ・ヴィレッジ構想があったのです。

クリエイティブ・ヴィレッジ構想とは、高齢化によって産業が衰退する奥大和に、若いクリエイターや職人を呼び込むプロジェクトで、坂本さんと福野さんが温泉に浸かりながら話したことから生まれた構想だそう。話し合いを重ねた二人は、東吉野村の水本実村長に直談判に向かった。すでに移住していた、坂本さんの友人でプロダクトデザイナーの菅野大門さんも同行したが、連れていった、まだ赤ちゃんだった長男の問太くんを見た村長が、「こんな赤ちゃんを連れてきた若者が村に移住するのか」と驚き、「それでいこう!」と

念願の古民家を手に入れることができた。

「それが、『オフィスキャンプ東吉野』です」と坂本さん。イメージパースと平面図を描き、地元の建設業者にリノベーションを依頼した。建設資金は、村が用意した資金を元に、国と県から補助金を得て賄った。

オープンして1年。「オフィスキャンプ東吉野」を人口に、東京、大阪、ニューヨークなどから5組10人の若者が東吉野に移り住んだ。奥大和に在任のクリエイターが仕事場として利用したり、ものづくり職人が訪れたり、クリエイティブな場として賑わっている。その奥大和在任のクリエイターや職人を紹介しよう!

新しいクリエイティブ・ライフの地。 奈良県・奥大和で始まっていること。

奈良県南部・東部の急峻な山や清流に囲まれたエリア、奥大和。その一つ、東吉野村に「オフィスキャンプ東吉野」が誕生し、ものづくりを愛するクリエイターが集まって、村を元気にしています!

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui



「こゆ創設」のスタッフと土屋文和氏（前列中央）。「こゆ」は新富町を含む足尾郡という地域名から取った。株式会社をソノバネにしたオフィスの前で。

Social Business #1 **こゆ地域づくり推進機構** <http://koyu.miyazaki.jp>

新富町の旧・観光協会を法人化して設立。持続可能な地域づくりを目指す！

「こゆ地域づくり推進機構」は、新富町の観光協会を解散し、役場が設立した地域会社。「楊貴妃ライチ」など特産品の開発・販売、ふるさと納税返礼品のPRや配送、起業家の育成を行う。元・役員職員で執行理事の岡本啓二さん（組合写真・前列右2人目）は、「ふるさと納税返礼品や特産品開発で得た利益を



●開放的なオフィス。●足尾郡の特産品直販サイト「こゆショップ」の形造り作業。●「元志スタートアップ大学」の受講生、キョウリ農家の穂保美一さんと伊藤英治さん。●「AAVU宮崎」で資金を募り、新富町で在交種のキュウリを育てたい」。●土曜日の小年田明教習さんは、「みんなが楽しめるシカキ製品加工所をつくりたい!」。●楊貴妃ライチ、大きい!

ついていけないに諦めてしまうケースも少なくないので、もちろん、ビジネスを継続するために頑張って儲けることは大事です。でも、儲けすぎなくてもいいですよ」

自然体で、自分らしく、バランスを取りながら、持続可能なやり方で実践してこそソーシャルビジネスだと、そんな考えを持って活躍する宮崎のプレイヤーたちを紹介しよう。

自然体で、持続可能。宮崎流ソーシャルビジネス。重さは50グラム以上。左ページ下の写真のように、手のひらに載せるとその大きさも実感できる。皮を剥き、肉厚の果肉を口いっぱい頬張れば、甘い果汁があふれ出てきて、「うまつー」と思わず笑顔になる。「男湯郡新富町のライチですよ」と言うのは、この「楊貴妃ライチ」を

「自然体で、自分らしく、バランスを取りながら、持続可能なやり方で実践してこそソーシャルビジネスだと、そんな考えを持って活躍する宮崎のプレイヤーたちを紹介しよう。」

世界一チャレンジしやすいまちを目指して。**宮崎県は、ソーシャルビジネスの新天地!**

ソーシャルビジネスを始めるには、宮崎県が最適な地域かもしれない。その理由は、新しいソーシャルビジネスのビジョンを持ったプロデューサーと、失敗を恐れず、でも自然体で、持続可能なビジネスを志す熱い仲間がいるから!

photographs by Yusuke Abe text by Kentaro Mossui

販売する。地域プロデューサーで「こゆ地域づくり推進機構」略称、こゆ財団一代表理事の倉本潤一さん。宮崎県を世界一チャレンジしやすいまちにしようと呼びかける。宮崎県ソーシャルビジネス界のキーパーソンだ。「ライチは国内市場の90パーセントが海外産。スーパーのライチも多くが台湾産の冷凍品なんです。新富産の生の楊貴妃ライチを食べたら誰もがそんな笑顔になりますよ」

旅と時間を、ここ阿久根市から編集する。

『イワシビル』に込めた思い。



鹿児島県阿久根市の水産会社の常務取締役・下園正博さんがつくった、カフェやショップ、工場、ホステルを備える『イワシビル』。販売する自社商品の開発では、社員自らが生産者に取材し、阿久根らしさにこだわった「旅と時間」を届けている。名前も中身もユニークな「イワシビル」を体験しました！

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

地域で生かす、編集力
skills of local editing

『イワシビル』の最善りの阿久根駅、高級列車「ななつ星」で知られる水戸岡敏治さんのデザイン。

「何かやれ」と、父に託された一棟のビル。

最近、丸干しを食べましたか？
「そう言えば、食べていない」という方は、「イワシビル」で販売している「旅する丸干し」を食べしてほしい。洋風に味つけた丸干しの、おいしさと新鮮さに驚くでしょうから。

鹿児島県阿久根市は、昔から丸干しの原料となるイワシの産地だ。その海沿いの地区で80年ほど前、サバやイワシの加工販売を始めたのが下園正博さんの祖父・薩男さんだ。水産会社「下園薩男商店」として父親の満さんが受け継ぎ、今は主に量販店に丸干しを卸す商売を営んでいる。下園さんはその3代目。常務取締役を務めているが、ある日、社長の満さんから、「正博、ビルを買おうと思うが」と告げられた。

「どうだ？ 安いらしいぞ」
「ビルなんか、何に使うの？」

下園さんは反対した。「旅する丸干し」という「下園薩男商店」にはない新商品を開発し、それを販売するカフェ&ショップを海が見える丘につくろうと計画していたからだ。「そのための資金に取っておいてほしい」と頼んだが、満さんはビルを購入。「何かやれ」と下園さんに託した。「魚を扱ああの世代の大人は、買いだ」と直感したら迷わず買います。魚の値は取引量に左右され、今日と明日で何倍も変動することがありますから。それでビルも」と苦笑いを浮かべる。

突然手に入った、築約50年の3階建てのビル。市の中心ではあるが、シャッター通りと化した商店街の端っこに位置するこのビルで、どんなビジネスを行えば収益を出せるのか、



鹿児島県阿久根市の中心地にある3階建てのビル。こちらが『イワシビル』です！

『イワシビル』で阿久根らしさを味わってください

下園薩男商店
常務取締役の
下園正博さん

『イワシビル』で自社商品を製造し、地域の人や旅行者を迎えるスタッフの皆さん。女子率が高い！



赤い丸屋根が印象的なJR飯田駅。飯田の名産・リンゴがモチーフに、ここまで来れば「裏山しいちゃん」はすぐそこ！

「裏山しいちゃん」に来る、 内発性を持った若者たち。

長野県飯田市のJR飯田駅から歩いて5分ほどの元町交差点の角に、ちよっと変わったスペースがある。2階建ての古い建物をリノベーションし、2017年4月にオープンした「裏山しいちゃん」だ。運営するデザイン会社「週休いつか」の代表取締役社長・新海健太郎さんが「どうぞ」と引き戸を開けて、中へ案内してくれる。「週休いつか」のオフィスも1階に入っているそうだが、まず目に飛び込んできたのは棚に並んだたくさんのお菓子。「くまのこしよてん」という会員制の貸本屋を営んでいます。駄菓子も高校生が販売しています」とのこと。2階へ上がると、カラフルに装飾されたスペースが。「ここはレンタルス

ペースで、コワーキングとしても使えます。数人の女性が作業していたので声をかけると、「大丈夫ですよ」と取材に応じてくれた。

水引作家の白子加菜さんは、水引の雑貨やアクセサリーなどをポップな感覚でつくっている。「たまたまカフェで新海さんと出会い、飯田市出身のヘアメイクアップ・アーティストの小椋ケンイチさんと「水引御殿」という飯田の水引を盛り上げるプロジェクトを「裏山しいちゃん」でされていると知り、来るようになりました。水引は飯田の伝統工芸ですが、日常的に水引を楽しんでほしいと思って活動しています」と話す。Webデザイナーの奥山理香さんは、「裏山しいちゃん」をコワーキングスペースとして使っている。「週休いつか」からデザインの仕事を受託しながら、「最近自分でもや

project 108 裏山しいちゃん 長野県

代表の新海健太郎さんに聞きました！
これからプロジェクトを始めるといって、「見切り発車」でいいので始めましょう。発車後に発見を積んで、修正を要すればいいプロジェクトになっています。
DATA 活動団体名/週休いつか スタート年/2017年 スタッフ数/11名 www.itsuka.co.jp

「週休いつか」の 新海健太郎さんのアプローチ。 「裏山しいちゃん」と、 愉快なプロジェクトたち。

「裏山しいちゃん」に「山羊印カフェ」、「爆発芸術舎」に「桜咲道」。なんだか変わったネーミングの「場」が次々と広がっている長野県飯田市。愉快なプロジェクトたちが、「何もない」と揶揄される地域を盛り上げていきます！
photographs by Hiroshi Takeoka text by Kentaro Matsui

特集
地域と関わる
ローカルプロジェクト
PROJECT LOCAL!

地域の高校生、水引作家、ノマドワーカー、劇団員。長野県飯田市にある「裏山しいちゃん」には、ユニークな人が大勢訪れる！

長野県飯田市。
集まった人が次々と輝く、
ローカルプロジェクトの
玉手箱です！

アインの見方



プロジェクトへの参加



プロジェクトのメンバー募集



プロジェクトへの募集



プロジェクトの募集



プロジェクトの募集



プロジェクトの募集



思いもよらない
アイデアと、
仲間が生まれる空間。

レンタルスペースにたくさんの人が集まった。地域の人の世代を超えた交流と新しい何かが生まれる場に。



集う人の
内発性が、
連鎖します！

● 寿平神社の敷地内に立つ「裏山しいちゃん」。● 資本屋「くまのこしょてん」。会員になれば1冊80円で借りられる。
● 子どもたちには駄菓子屋が人気！ ● ママさんの赤ちゃんヨガやコスプレイヤーの撮影会など多彩な使い方ができるレンタルスペース。500円で貸し切りもOK。

ADDRESS

裏山しいちゃん

長野県飯田市元町5455-2 tel.0265-49-8948

www.facebook.com/41chxyz



① 低い廊下を過って2階の階段へ。ガラスケースの古道具も販売中。② 小椋ケイチさんがプロデュースした水引の装飾。③ 和紙の志にシルクの糸を巻いた水引。これは基本の結び。④ 水引作品を制作中の白子さん。今後は「裏山しいちゃん」でも販売したいと意気込む。

「開く人からひと言
美奈さんに誘われて通うようになりまして。僕もイラストレーターになるのが夢で、「週休いつか」の社員の方からパソコンの使い方、デザインや広告の仕事についても教えています。」

佐々木直哉さん



「開く人からひと言
駄菓子のネットでの仕入れ、販売、売上げの計算を担当しています。小学生の穴場的な店として人気です。思った以上に売れてきて（笑）。地域のお祭りの日には1日で1万円超えます！」

中嶋美奈さん



「開く人からひと言
新潟さんから地理学を教わったり、「平成の成吉思汗」という人材教育プロジェクトのインターネット会議を行ったり、いつか、大人も交えた意見交換会や講演会も聞いてみたいです。」

今村雄士さん



「開く人からひと言
「PUSH!!」という高校生向け情報誌の記者をしています。ただ、その仕事はあまりここではなく、学校の勉強をしたり、職をとったり。部活がない日はとりあえず来んでいます。」

棚山菜実さん



地域の高校生も足繁く通います！

僕が実感していますから」と笑う。
今後は、「裏山しいちゃん」的な場を地域の企業の間にも設けたいと構想を練る新海さん。とくに高校生と地元企業が関わる場をつくり、

飯田の魅力を実感して感じ取ってほしい、と、「進学で約7割が地域外へ出て、戻ってくるのは3割程度。その数値を上げるのも地域の課題です」と飯田の未来を思い描く。

そうに読み聞かせるといった演劇と本を絡めたイベントを開催している。「東京からUターンしたとき、飯田にこんなところがあったのかと驚きました。つい足を運びたくなる場所です」と笑顔。「いつか上演したいです」と戯曲を書く市瀬佳子さんも気に入っている様子だ。
駅から近いので、通りかかった地域の人が「こんなにも」と気軽に立ち寄る。夕方には4人の高校生が引き戸を開けて入ってきた。それ

「卒業後は都会の学校へ進学し、イラストレーターになりたいです。でも、いずれは飯田へ戻って返したいです」と地域への思いを語った。もともと起業支援の場として立ち上げた「裏山しいちゃん」や「やりたいいことを実現する場になれば」と新海さんは言う。そのために大切なことは「心からやりたい」という「内発性」とも。「内発的な視点で地域資源を掘り起こせば、何もないと揶揄される飯田の暮らしも楽しくなります。」



新海さんが取組む「まじまじ」がつくる「月刊まじめ」。飯田市でいちばんの発行部数を誇る情報誌。



高校生向け情報誌「PUSH!!」の創刊準備号。高校生記者は、作業場として「裏山しいちゃん」が使える特典も。

りたいこと、アフィリエイトですが、そちらに重点を置いて取り組んでいきます」と話す。「ただ、ノートPCで自分の作業をしながら、子どもたちにも行きます。その店番代も「これくらいかな？」と請求書に加えて出しています」と笑顔で答えてくれた。レンタルスペースを劇団の稽古場として使っている清水ゆかりさんは、稽古とは別に、「肉と本しみず」という料理本のレシピを、さもおいし

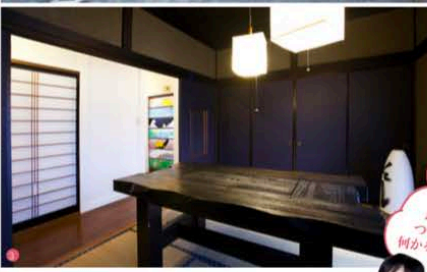
それぞれ違う高校に通い、「裏山しいちゃん」で知り合った。駄菓子を販売する飯田OIDE長姫高校2年の中嶋美奈さんは、「商業科の地域人教育というカリキュラムの地域企業インターンシップで「週休いつか」にお世話になり、そのときに「裏山しいちゃん」を知り、通っています」と話す。将来の夢はイラストレーター。新海さんに誘われ、学校帰りや休日「週休いつか」の社員にパソコンの使い方を教わっている。

関わる人からひと言
調訪市のゲストハウスに泊まり、旅行者が和やかにディスカッションしていたのを目にし、飯田にもつくりたくになりました。「桜咲造」の近所の方が祭りの神輿を担がせてくれたのもいい思い出です。

鎌倉明也さん



「桜咲造」のシェアスペース。以前は電器屋さんだった。●個室もある。●宿泊も可能。●「エース・リフォーム」代表取締役の太谷公嗣さん。「地域貢献する大人になってほしい」と高校生にエールを送る。●イベントの準備に来た鎌倉さんの後輩たち。●受験勉強に励む飯田高校の3年生。



CHECK POINT!
地域とつながり、何かを生む場!

ADDRESS
桜咲造
長野県飯田市上郷黒田379-4 tel.070-3163-5125
<https://m.facebook.com/sakurazukouzou>

16年に開設したシェアスペース「桜咲造」の生みの親は、飯田OIDE長姫高校2年生だった鎌倉明也さん。鎌倉さんは「飯田にゲストハウスをつくりたい」と、新海さんに飯田市ビジネスプランコンベンションへの応募のためのサポートを頼み出した。放課後に「週休1つ」を訪問、新海さんの指導を受けながら事業計画書づくりに没頭。オフィスで徹夜し、そのまま学校へ行くこともあった。数か月間かけて事業計画書をまとめ、コンペに挑んだものの、結果は奨励賞に終わった。

ただ、そのプランにリフォーム会社「エース・リフォーム」が賛同。改装工事を行い、「桜咲造」が誕生した。鎌倉さんは地域の大人を講師に招き、仕事や人生を語り合う「さくさく講話」を開くなど、高校生が地域と関わる場づくりに努めた。社会人になった鎌倉さんはこう振り返る。「実は「桜咲造」が高校生の遊び場になるのではと心配する住民の方がおられました。でも、新海さんと一緒に意義を熱心に説明するとご理解いただけ、さらにその方が「さくさく講話」にも登壇して下さったことが何よりもうれしかったです。

今、「桜咲造」は鎌倉さんの後輩が運営する。「それが大きな成果」と新海さんは、イベントの準備に来た後輩を頼もしそうに眺めていた。



関わる人からひと言
学校がインプットする場になっているので、子どもの絵画教室では思う存分アウトプットしよう! 絵や造形を通して、目標へ向けたプロセスの大切さや自分で何かをつくる力を養ってほしいです。

小川泰生さん



ADDRESS
爆発芸術舎
長野県飯田市今宮町1-33
tel.0265-49-8948 <https://m.facebook.com/bakugei>

CHECK POINT!



美術教室が少ない飯田の貴重な場です!



「爆発芸術舎」の玄関。子どもが18人、受験生が2人、大人が5人通っている。●通称、「ばくげい」。シンボルは夢を食うバク。●民家リノベーションした教室。いい雰囲気。●生徒が紙でつくったスタンドグラスを見せてくれる小川先生(左)と新海さん。●「塔(タワー)」というテーマで生徒がつくった人型の塔。粘土の色使いや装飾も絶妙の作品!

力し合い、「山羊印カフェ」を始めました。6年が経つ今も、感度の高いお客さんで賑わっている。「週休1つ」の女性社員の「子どもに絵を教えたい」という発案から14年に始まったのが「爆発芸術舎」という教室。地域の大人や子ども、芸大・美大受験生に絵画を教え、書道と英語教室も備える。絵画教室の講師を務める美術作家の小川泰生さんは、「子どもの場合、生徒から上がる「これを描きたい、つくりたい」という声を大事にしています」と話す。外国人向けの「English」も併設しているので国際交流も育める。

『桜咲造』に『爆発芸術舎』。自ら関わる人が増え、まちにインパクトを広げます。

CHECK POINT!
僕が地域と関わり始めた、きっかけの場!

関わる人からひと言
「山羊印カフェ」で働いています。シェアカフェなのでスタッフもお客さんも個性的な方が多く、そんな方々とながれることが楽しいです。私たちのアイデアが店で実現できるのも刺激になります!

加藤綾乃さん
滝川香澄さん

ADDRESS
山羊印カフェ
長野県飯田市高羽町1-8-1 カフェ狐内
tel.0265-48-5040 <http://yagin.net>



●月曜はカレーが人気の「山羊印カフェ」。火・水曜は自家焙煎コーヒーの「音階社」。木～日曜は「カフェ狐」、物販として「あいろいろ菓子工房」とアフリカ雑貨の「Bigga」が入っている。●山羊印スパイスを使ったネパールカレー。●まろやかな味のチャイ。

「裏山いちちゃん」をつくる前から、新海さんはさまざまなアプローチで地域を盛り上げてきた。12年にオープンした「山羊印カフェ」は、「以前は天然酵母のパン屋さんで、会社勤めをしていた頃、よくランチを食べに来ていました。……けど、ある日突然、閉店しちゃった」と新海さん。お気に入りの場所をなんとか残したいと考え、仲間とカフェを開くことに。「シェアカフェ」という言葉も知らず、ただ残したい一心で仲間と協

「後輩に受け継がれたことが、『桜咲造』の大きな成果!」

滋賀県
長浜市からはじまる、
ソーシャルな
うねり。

「どんどん橋プロジェクト」、スタート!

滋賀県長浜市街地とある路地裏に、コンクリート製の小さな橋が架かっています。その橋のもとにある長屋2軒分を改装し、農家や建築家がシェアするプロジェクトが始まりました。

Photographs by MOTOKO text by Hisaki Inoue

小さな橋のたもとで 町の「ストック」を発見。

滋賀県長浜市は、秀吉が初めて築城した長浜城の跡地。掘り返された水路や昔ながらの町並みが美しい。琵琶湖北部に位置することから、この地域は湖北と呼ばれる。北国街道と大手通りが直交する界隈は、町家が軒を連ね、民家や商家として実際に利用されている。町の中心部から徒歩10分ほどの場所に面白い名のコンクリート製橋がある。かつては木製で歩くとときに弾むような音がしたことから「どんどん橋」と呼ばれている。その橋のたもとにある築80年ほどの長屋をリノベーションし、シェアスペースとして使うプロジェクトが進行している。その名も「どんどん橋プロジェクト」。

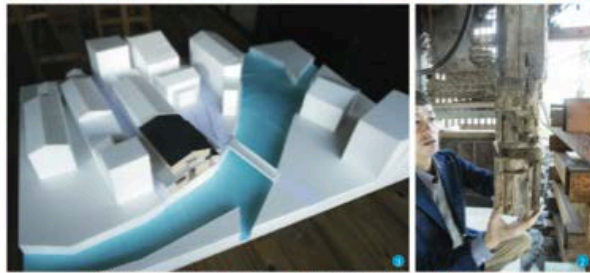


ただいま「シェアスペースどんどん」を建築中。
長浜には、こんな動きが次々と生まれつつあります!

化や自然に魅了されていく。なかでも、琵琶湖を含む近畿系や、そこに結み合う人々の生活が新鮮だった。「僕の前々前には長浜ほどの古い町並みが残っておらず、ここに来て

エキゾチックな気持ちになった」。外からの視点で長浜を見渡すと町や人の「ストック」がたくさんあった。長年人が蓄み、語り継いできたものだ。ただ、その「ストック」も経

済活動の外にある古い家々はないがしるにされてきた。町の中心地であればリノベーションされ息を吹き返す機会を与えられたが、中心地から離れると朽ち果てていく。しかし、



●築80年ほどの長屋、ワークショップをしながら改修を進める予定だ。●杉村の社が「修繕」された形跡。この地は水害が多く、先人たちは家を敷き立て長年守ってきた。「何だも壊しながら使っていたけど」と竹村さん。●川のそばの色が塗られた屋根が物件。川のそばにはイチジクの木も。



高層に建てる家も改修して、人が集う場所すればまた息を吹き返すのではないだろうか。竹村さんには仕事や遊びでつながった農家、建築家、デザイナーなどの仲間たちがいた。「彼らが集える活動拠点をつくりたいだろうか」。

「みたくて農園」の立見夫妻は以前から食品加工をする場所があればいいなと考えていた。1個人でつくれば数百万円の出費。加工所がほしいけれど、投資に二の足を踏む農家が多い。と立見夫妻は言う。キッチンスペースや必要な機材を置けば、農家を使えるシェアスペースとして使える。販売も可能だ。設計士の佐野さんも町中に事務所を構えたいと思っていた。「だったら、共同オフィスとして使ってみたら考えた。佐野さんには事務所兼店舗もしてもらえます」と竹村さんは微笑む。

町の上の世代たちからは「ここまで傷んだ建物を改修する意味がわからない」と笑われた。ただ、価値観は違って若者も年配世代も「長浜らしさ」が大切と言う。今まではその言葉の意味に世代間の隔たりがあった。そろそろ同じ湖北像を持つべき時代がきているのかもかもしれない。

<p>加工所ができるのが楽しみ!</p>  <p>立見 実さん 「みたくて農園」の産品を使った料理や加工品、ワークショップなども企画中。</p>	<p>おいしい米を売りたい。</p>  <p>立見 実さん 「みたくて農園」代表。米農家。西日本有数の米産地・長浜の米をここから発信。</p>	<p>年中地元野菜が買える場所に。</p>  <p>七廣 信光さん 「はなの森農園」代表。野菜農家。40年の経験。長浜の米をいっしょに発信予定。</p>	<p>長浜の魅力がウェブで発信。</p>  <p>村上 孝一さん 長浜を伝えるWebマガジン「ナガシン」代表。ウェブを通して活動や情報を発信。</p>	<p>店舗兼建築家です。</p>  <p>設計士「MAPIS_design」代表。美意識「コアスペース」を軸に、</p>	<p>大層生産と消費の次の社会を!</p>  <p>デザイナー、アパレル実業家から編集、ショップ立ち上げのノウハウを学ぶ。</p>	<p>老若男女が集える場所をつくる。</p>  <p>「長浜5つの株式会社」代表。外からの視点で長浜を学ぶためのキーマン。</p>
---	--	---	--	---	--	---



どんどん橋の上に立つ「どんどん橋プロジェクト」のメンバー。さて、これからどんな物語が生まれるか、をうご期待です。

こちらが、どんどん橋!

滋賀県長浜市の水辺まちづくり in 東京

美しい水辺のまちづくりが目される長浜。「どんどん橋プロジェクト」のメンバーとともに、長浜の魅力や、これからのまちづくり、ローカルの可能性を語るイベントを開催します。長浜のおいしい食べ物をご用意して、みなさまのお越しをお待ちしています!

日時/2016年3月6日(日) 15:00-17:00
場所/東京・有明【コハスカフェARIAKE】
【武蔵野大学キャンパス内】
tel.03-3549-1011(イベント編集部)

ファシリテーター/指出一正(イベント編集部)



●民家の影を流れる米川。大雨などで水量の多い時季にはいまだにあふれることもあるそう。●東々の裏には水路とつながる出入り口がある。かつては米や野菜などを売りに来る農人が舟で訪れたという。

と竹村さんは指摘する。その「長浜らしさ」を体現する人が集い、ナレッジをつくる「どんどん橋プロジェクト」だ。間もなく、橋を渡り、たくさんの方が訪れる。

















関係人口をつくり、増やす ソーシャルな視点

1. 関係人口ど真ん中の人
2. 関係人口を迎え入れる人
3. 関係案内所

ご清聴

ありがとうございました。

最新号は好評発売中！

特集「続・関係人口入門」

ソーシャル&エコ・マガジン 「観光以上、移住未満」の地域との関わり方！「関係人口」の大特集！

ソトコト

No. 237
March
2019
SOTOKOTO
1000YEN

続

観光以上、移住未満。

関係人口入門

関係人口の
なり方、
作り方
Q&A

Think More Local, Think More People

ソトコト編集部(編集者27名) | 2019年2月28日発行(発行所185名)発行

ソーシャル&エコ・マガジン

未来をつくる仲間が増えています!

ソトコト

ありがとう20周年!!

20祝



ゴミ、捨てんなよ!



ゴミ、捨てんなよ!

